

〔県民局だより〕

『公共牧場』で職場体験！

備中県民局農畜産物生産課畜産班

中学校の教育過程の1つに、「職場体験学習」というのがあります。希望する地元の企業で労働を体験し、職業や自己の適性について考え、働くことの厳しさや喜びを知り、社会性等を身につけようとするものです。

高梁市大池山育成牧場にも、ここ数年、毎年1～2名の学生が訪れていましたが、今年は高梁中学校から女子9名もの希望者があり、牧場職員だけでは十分な対応が難しくなったため、県民局で普及センターや家畜保健衛生所の協力も得ながら、将来の酪農家の誕生を期待しつつ、体験学習内容を企画してみました。

コンセプトは、

- ①大人になっても忘れない内容に！②作業の意味を体験しながら理解する
- ③就農の芽を育てる

2日間、朝10時から午後3時までという限られた時間内でしたが、関係者の不安も吹き飛ばす程、学生達は準備した資料や説明に興味を示し、たくさんの初体験があったようです。

研修終了後にアンケートを記入してもらいましたが、梓に入りきらない程、感想を記入する学生もいて、その中で「将来農業をしてみたいか」との問いかけには、殆どの学生が飼ってみたいとの回答があり、関係者同士ニンマリした次第です。

学生達から手紙が届きました。2日間の疲れも心地よく感じさせられました。一部紹介します。



マイナス196度って？



7千ボルトを体感！



脂肪を包む蛋白質の膜を破壊！？

Yさん:牧場の手伝いを通して牛が好きになりました。とても貴重な体験ができて楽しかったです。今度はもっと長く体験がしたいです。

Oさん:牧場の皆さんはとても優しくて、全てとても楽しい思い出で溢れています。他の人にもやらせてあげたいです。子牛に指を吸われたり直腸検査が頭から離れません。親が反対しない限り畜産に係わる仕事をしてみたい。

Nさん:牧場の仕事の大変なところを知ることができました。もっといろんな仕事をしてみたい。

Aさん:結構大変な作業が多かったけど、畜産の大変さ、牛を育てる事の意味が解りました。今回学んだ事を生かせる仕事ができればいいと思います。

Oさん:どの体験もなかなかできるものでなく少し戸惑いましたが、説明を聞いた後に体験をさせてもらったのでよく解りました。特に受精卵移植は驚くことばかりでした。

Yさん:めちゃめちゃ貴重な体験ができてよかったです。おばあちゃんの家が山の近くで畑もあり、できたら畜産をしてみたいです。

Hさん:最初は乳搾りとか出来るのかと思ってたけど全然違った。家で畑をされていて農業に興味はあったけど今回の体験で更に好きになれました。家の隅に1匹でもいいから飼ってみたいなと思った。

日程	体験学習内容
10/16	牧場や牛の理解 給餌 ほ乳 播種 除草作業
10/17	発情確認 電気牧柵整備 アイスクリーム・バター作り



忘れろって言われても・・・